

園長だより NO118

肌寒い日が続きます。寒暖差があり、対応しきれない身体は体調に変化を与えます。インフルエンザも流行の兆し、体調の管理には気をつけて下さい。

子どもの体験を奪わない保育

この時期は多くの乳幼児の施設で芋ほりを行うことは珍しくない。当園は昨年まで園から数分の畑をお借りしていた、時代の様変わり畑を借用することが難しくなり、自園の小さな畑で苗を植えて育てることにした。子ども達には日々成長を実感できる環境下の方が刺激を与えてくれる、10/29に芋ほりをした。昨今の酷暑と土壌の関係で出来栄が良くないが少々だけでも食す程度には収穫できました。

ある保育園の話、私もその話を聞いて、「あーなんてことをしているのだろう」と残念な思いを抱いた。話しはこんな内容です。園の一角に畑をつくり、苗を植え、さつま芋を育てていた、栽培管理も十分ではなかった事も影響してか、つる狩りの最中に 不作で子ども達が掘るところではないと判断した。

ここからである、スーパーに行き、さつま芋を買い、子ども達にはわからぬように買ってきた芋を土の中に忍ばせ、埋めていったという。当然、子ども達はそのことは知らない、先生たちは何食わぬ顔で一緒に芋ほりをしたと

いう。

土の中から出てきた芋をみて満足げな子や歓声をあげ喜ぶ子もいたという。

実体験のはずが疑体験である 自然と対話するところが不自然な対話になっている。言葉は悪いが子どもを甘く見ている。

その園は何のために芋を育て、収穫、その後の活動(営み)にどんな思いを持ち、願っていたのだろうか 収穫量が十分でなければ子ども達はがっかりする、子どもの喜んだ顔が見たいがための行動だったのだろうか、芋を買いに行き土の中に埋めることに疑問を抱く先生はいなかったという、「それはちょっと」という思いを伝えられない風土があるのか保育に携わる身としては子どもの貴重な体験を奪ってしまう保育に残念な思いしかない。

※その園なりのお考えはあると思いますが

成功体験だけで世の中は成り立っていない。生きるということは失敗、つまずきなどの連続である。栽培などは外的な影響もあり、その都度、考え、悩み、その時の最善を尽くし進歩している。その時々状況に真摯に向かい合い考え、対応していくことは大切と考えている。

乳幼児の世界には失敗は、日々、山のように起こっている、遊びでも思うようにいかなことも多々ある。

例えば積み木をしている。高く、高く積みたいが 何度も倒れ、崩れてしまう、どうしたらうまくいくのかな よしもう一度やってみようとする。失敗の繰り返しで自己の思うよう



202510.31

な形ややり取りができるようになっていく。仲間関係でも自分の思いが伝わらないこともある。相手にわかるように根気よく伝える場面もある。それぞれが異なる思いをみんなに伝え、共に考え、方向を出し、一つのことをやり遂げることもある。子どもの暮らしの中に成功体験の前にたくさんの学びである失敗の体験があるのです。

子どもに立ち返り ゆだねること

ある保育園の事例 思うように収穫できず 不作であったことに、子ども達が出会、気づき、発見したらどんな展開になったのだろうか 収穫できなかったことを子どもたちは話題にして考え「なぜなんだろう どうしてなんだろう」と探求し対話をしていたに違いない。

子どもは大人が考えている「負」を「プラス」に変化させる天性の感性や思考がある。少ない収穫量でもいろいろな案が出て子どもの中で取り組むべき道が子どもにより導き出てきたに違いない、

※お芋の山



おおぞらではどうであろうか、芋ほりをした後にお芋の会としてお芋を食べる行事をするのが慣例であるが その年々で異なる取り組みがあっていると思っている。

以上児の担任とこんな話をした。行事としての芋ほり、お芋の会(食べる日)が大人の思いが強ければ計画通りに遂行しようとする。

すると、みんなで食べることを考え、少なければ買って足した方がいいとなる。

子どもたちは掘り終えた時、「今年は少ない」と嘆いたのかと尋ねると 掘り終えてシートに芋を並べ「いっぱいとれた」と喜んでいたという。子どもの感覚や感性はこんな具合に大人とは異なる。大人は少量と感じても子どもには「たくさんある」と感じているのです。

芋を食べるのも「焼き芋」「ふかし芋」が定番ですが それは大人の思い、感覚である。担任とのやり取りから、子どもに立ち返って考えることを提案した、担任もそう思っていた、いろいろな調理法がでてくるだろう、そして実現できるものを数回に分けてもいいのでやってみたらよろしいと確認した。この時期に限らず取り組めるときにやればいいと思う。

冒頭で、ある園の出来事について「子どもを甘く見ている」と記述した。大人の目線ではなく、こども ひとり、一人がどんな心情なのか自然の体験を通じてどんな感覚、感性を表しているのか 子どもは大人の考えている以上に、いや、考えつかないことを考えることができるのです。子どもに立ち返り、考えていく時間を作っていけば、おのずと道筋はできるのです。それは失敗でも、うまくいっても子どもにとっては良い体験なんです。

「投げかけ 立ち返り、ゆだねる」ことで見えてくるものがたくさんあるのです。

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)